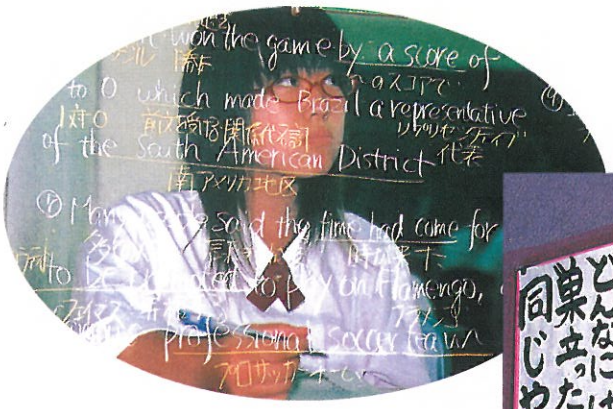
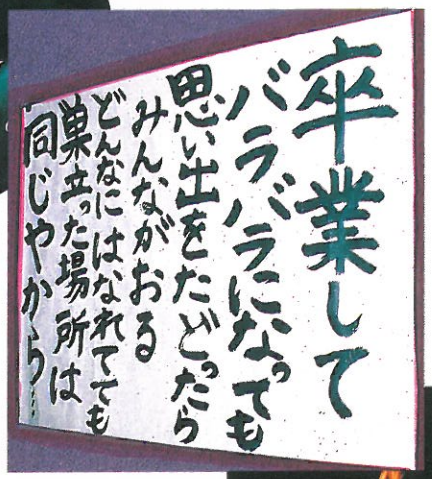

won the game by a score of
which made Brazil a representative
of the South American District
said the time had come for


卒業して
バラバラになっても
思い出をたどったら
みんながおる
どんなにはなれてても
巣立った場所は
同じやから

27期生

学級	第１学年　担任
1	白浜　治作
2	有本勢以子
3	吉村　信義
4	植松健一郎
5	大川原香子
6	梶　　修
7	小林　利明

学級	第２学年　担任
1	小林　利明
2	有本勢以子
3	梶　　修
4	白浜　治作
5	吉村　信義
6	大川原香子

学級	第３学年　担任
1	大川原香子
2	木村　康夫
3	吉村　信義
4	有本勢以子
5	広野　　森
6	小林　利明

誇りをもって学校が語れるすばらしさ

27期生学年主任　植松　健一郎

３年生の秋、学年行事の内容について、生徒の意見が分かれた。比較的多数がＵＳＪを推したのに対して、少なくない生徒が意義を唱えた。その中に「私らの学年はずっと自然の中で活動してきたんやから、最後の学年行事も自然の中で活動するのがいい。２年生の遠足(神戸布引の滝と元町中華街)も修学旅行も行く前はいややったけど、行ったらめっちゃよかった。なんで今回はＵＳＪなん？」という意見があった。結局、この時はＵＳＪになってしまったが、この声はたいへんうれしかった。

27期生はわらび座での「ソーラン節踊り教室」と「農業体験」の二つを活動の軸とした、東北への修学旅行を実施した。旅行前には「なんで私らだけ東北なん？」「恥ずかしくてバイト先で言われへん。」「農業体験て何すんの？」など、さまざまな不評の声が聞こえた。ところが、秋田へ行くと一変した。

「踊り教室」では、仲間との絆を深めることができた。日ごろ活発な生徒はもちろん、教室では大きな声を出したことがない生徒も、精一杯の声を出して、生き生きとソーラン節を練習した。クラスの声が稽古場を揺るがしていた。生徒がもっとも「良かった」と答えたのは「農業体験」だった。５、６人のグループごとに田沢湖町、横手市周辺の農家に１日お世話になり、農作業の体験をするという取り組みであった。「秋田のお父さん、お母さん」の温かさに触れ、心を通わせ合い、たった１日のおつきあいだったにもかかわらず、お別れの時には涙を流していた。その涙に生徒の純真な心を見た思いだった。そして、この修学旅行の成功が、27期生をさらに成長させてくれることになった。

近年、「居場所」という言葉が大きく取り上げられるようになっている。27期生はその「居場所」をできるだけたくさん設けることを意識して追求してきた。退学する生徒が比較的少なかったのはその成果だったのではないだろうか。１年生の体育祭で、すでに刷毛を持って看板や応援旗づくりに参加している姿がビデオに残っている。続く文化祭のポスター、垂れ幕、連凧の取り組みで芽生えた好敵手意識は、２年生のキャタピラファイター制作で燃え上がり、３年生の文化祭まで熱い闘いが続いた。自分が認められる場所、自分が頼りにされる場所があることが、自信につながり、友達や学校との絆を深めていくことにつながった。

長年続いた不況はやや回復の兆しがあるものの、求人状況は相変わらず厳しい。一方で、株の売買など安易にお金を手にする方法がもてはやされ、不正が横行するなど、まじめに働くのが馬鹿馬鹿しく感じられるような世の風潮がある中で、例年より多くの生徒が学校斡旋で就職をしていってくれたこともうれしいことであった。卒業にあたってのビデオメッセージで、「自分で納得のいく行き方がしたい」「誇りのもてる仕事がしたい」「人の役に立つ仕事がしたい」と語る生徒の姿に心を打たれた。

そして、なによりうれしかったのは、ビデオで、卒業文集で、アンケートで、「柏原東に来てよかった」「柏原東最高！」「柏原東大好き」という言葉が次々と出てくることだった。誇りをもって自分の学校のことを語れることは、なんとすばらしいことか。柏原東高校で積み上げられてきた営みを引き継ぎ、多くの人たちに支えられながら、柏原東高校での３年間を過ごすことができた27期生は、本当に幸せだったと思う。その27期生の成長の手伝いをすることができた担任団、学年団はさらに幸せだった。

教職員が大幅かつ急激に入れ替わり、柏原東高校は、今、分岐点に立たされている。どんな方向に学校が変わっていくにせよ、そこで学ぶ子どもらが「柏原東に来てよかった」と思える学校であり続けることを切に願っている。

PINK

「銀河鉄道の夜」
2004年4月17日～2005年1月29日
銀河鉄道の夜

28期生

学級	第1学年　担任
1	洲鎌　　啓
2	杣本　惠勇
3	角谷　修治
4	松場　弘子
5	城　　貴子
6	平井　俊男
7	吉岡　　哲

学級	第2学年　担任
1	田中　清隆
2	城　　貴子
3	洲鎌　　啓
4	平井　俊男
5	角谷　修治
6	松場　弘子

学級	第3学年　担任
1	角谷　修治
2	松場　弘子
3	城　　貴子
4	田中　清隆
5	洲鎌　　啓
6	平井　俊男

28期生のこと

28期生学年主任　富澤　妙子

28期生もあと数ヶ月で卒業していきますが、柏原東高校で過ごした日々の中で、彼らは確実に成長してくれたと思います。入学当初は、幼い面差しと言動に、ほほえましい思いとこれは育て上げるのが大変だなという思いを持ちましたが、人の話に素直に耳を傾ける態度と、様々な行事でクラスの仲間と協力し合い、楽しむ姿はずっと変わりませんでした。学年が進むにつれて、友人関係がこじれたときも自分達で修復することができるようになり、友人のルール違反を諌めたり、欠席がちや成績不振の同級生を気遣うようにもなりました。

高校生活における最大の行事修学旅行では、沖縄へ行きました。ガマや摩文仁の丘、ひめゆり平和祈念資料館も訪ねる企画で、事前に平和学習を行いましたが、もっと時間をかけることができたらという悔いが残っています。しかし、事後のアンケートで見る限り、生徒の心の中には十分残るものがあったようです。一生の思い出になったという生徒の言葉が何よりの喜びです。

28期生が卒業後に自立した人間として生きていくことと、この柏原東高校の卒業生だと胸を張って言える学校として本校が40周年、50周年を迎えることができることを祈っています。

陶芸
一年
陶芸展

29 期生

学級	第１学年　担任
1	松浦　昭彦
2	藤田　　薫
3	杣本　恵勇
4	坂井よし江
5	勝山　正樹
6	平瀬　昭弘
7	徳永　克也

学級	第２学年　担任
1	杣本　恵勇
2	徳永　克也
3	平瀬　昭弘
4	松浦　昭彦
5	藤田　　薫
6	坂井よし江

29期生（2005年度１年生）の四季

29期生学年主任　吉岡　　哲

担任団全員が赴任１～３年目の新しいメンバーでスタートした。

春、遠足で奈良県「山の辺の道」をクラス単位で歩いた。天理市夜都岐神社の社殿を背景にクラス集合写真撮影後、桜井市大神神社（三輪明神）まで「しんどかった」が歩き通した。生徒の中には万葉歌碑・古墳・神社・展示施設内の遺跡出土遺物の写真撮影を行う人もいた。秋、これらの写真やルート地図・模型を作成し、文化祭の学年企画展示とした。

夏、体育祭での大縄跳びにむけ、むし暑い中、へとへとになりながら、足首が痛むほどに各クラスとも全員で練習に励んだ。

秋、球技（バレーボール）大会や文化祭（劇・展示）でもクラスのまとまりをめざして盛りあげ取り組んできた。

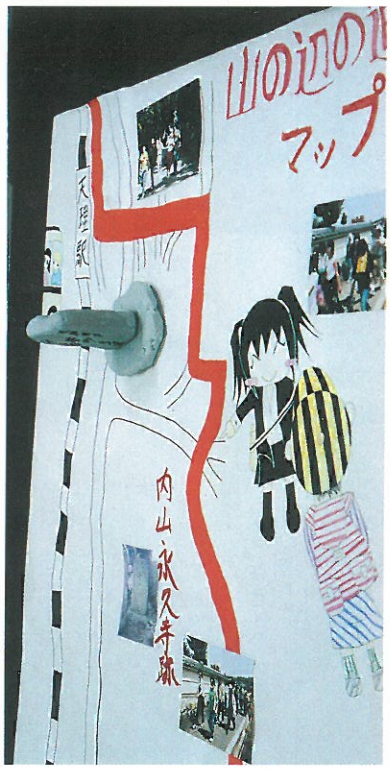
冬、本校の裏山―平尾山古墳群―をめぐるハイキングでは、古墳の見学もしてほしいと願い、「学年通信」で古墳の概要を記してコースの紹介をした。またカルタ（百人一首）大会では体育館でクラス対抗戦を行い、寒さを忘れた熱戦となった。

いずれの学年行事においても健闘を讃え、学年トロフィーを贈り表彰してきた。

学習活動や生活指導面で学校を続けていくことができず転・退学の道を選ぶ生徒や、心に不安感をもつ生徒が増えてきた。教育相談体制も強化されなければならない。いろんな意味で季節の移り目をむかえたといえる。

柏原市内唯一の府立高校として、本校が今後どう生き残っていくのか、一市民としても、地域の中で信頼を得て発展していく道を考えていきたい。

我ら今こ
4


山の辺の
マップ
内山永久寺跡

30 期生

学級	第１学年　担任
1	中村　　健
2	池田　　正
3	田村　逸子
4	中村　泰幸
5	広野　　森
6	中村　和子
7	人見　周太